

私たちは言葉により思考しています。第I章で示したように、多くの単語には表向きの意味以外にコノテーションが含まれています。否定的で感情を刺激する言葉ではなく、肯定的で偏見のない言葉を選べば、思考にもよい影響を与えます。言葉の選択は重要です。インクルーシブ言語は、思考の枠組みを変えて公正や平等を目指す試みとも言えます。

第II章では、時代に沿って変化しつつあるインクルーシブ言語の要点をまとめ、多くの例を示しつつ誰もが互いを尊重し合うインクルーシブな言葉選びのガイドラインを示します。ただし、今の時点で適切だとされる語が、将来ほかの言い方に変わる可能性もあると心に留めておいてください。言葉の使い方は常に変化しています。

多様性を尊重し共生社会を目指すインクルーシブ言語のキーワードはこれです。

言葉は重要である。

Words matter.

● インクルーシブ言語はどんな場で必要か

英語圏で暮らすなら、隣人や同僚との日常会話でもインクルーシブな言葉の配慮は大切です。配慮の重要性は、教育や医療の場、自治体の広報、各種イベントなど公共性の高い場面でぐんと増します。それだけではありません。ビジネスにも影響を与えます。一つ例を挙げると、アメリカのIT大手マイクロソフトの広告部門が1997年～2012年頃に生まれたZ世代を対象に行った広告の好感度調査があります。宣伝文句の言葉が人々の企業イメージや購買行動にどのような影響を与えるか、調べたのです。その結果によると、インクルーシブな広告は、「人々の企業に対する信頼とその商品への愛着を深め、購買意欲を促す」と判断されました*1。報告書には次の一文が記されています。

Overall, the main feelings produced by inclusion are joy and trust.

全体的にみて、インクルージョンにより生まれる主な感情は喜びと信頼である。

日本でもグローバルに情報を発信する機会が増えています。組織や団体に限らず個人でもウェブサイトや広報文書で英語情報を記載する時は、英語圏でのインクルーシブ言語の最新情報を知る必要があります。時代により変化していく言葉遣いに疎いままだと、何気ない一言で「時代遅れだ、時勢に暗い」と思われかねません。知らないまま用いた不適切語が、不用意に受け手に不快感や疎外感を与えてしまう危険もあります。すべての人を包摂するコミュニケーションは、その場で訂正のきかない書き言葉ならなおさら大切です。

● 分野別のインクルーシブ言語紹介

次のセクションからは下記の項目に分けてインクルーシブな言葉遣いを紹介していきます。

ジェンダー（性別）

年齢

障がい

性的指向

人種

執筆にあたっては、数多くの英語で書かれたインクルーシブ言語のガイドラインを参照しました。ガイドラインにより推奨する言葉遣いが少しずつ異なるケースも見られ、そんな時はThe Associated Press 米国連合通信社（AP通信）のスタイルガイド *The Associated Press Stylebook, 56th Edition* を主な基準としました。ジャーナリズムの世界では文体の標準として広く参照されている本です。最新の56版にはInclusive Storytelling（インクルーシブに

* 1 The Psychology of Inclusion and the Effects in Advertising: Gen Z
Inclusive Marketing Research Microsoft Advertising

記事を書く）という章が追加され、スタイルブック全体でもインクルーシブな用語を詳しく解説しています。もう1冊参照したのがThe University of Chicago Pressが発行する*The Chicago Manual of Style*です。これはアメリカ式の英文スタイルの標準とされ、作家や編集者のバイブルとも言われています。2冊とも、権威あるライティングのスタイルガイドです。本書では、前者を「APスタイルブック」、後者を「シカゴマニュアル」と略して言及します。

■参考文献

The Associated Press Stylebook, 56th Edition, Basic Books
The Chicago Manual of Style, 17th Edition, The University of Chicago Press
The Inclusive Language Field Guide, Suzanne Wertheim, PhD, Berrett-Koehler Publishers, Inc.
Inclusive Language, A Writing Guide on Respecting Diversity, Lingo Valley Inc.

1

ジェンダー・ニュートラル (性的中立)

インクルーシブ言語の最初のトピックとしてジェンダー・ニュートラル(gender neutral) な言葉を取り上げます。

gender neutral は、gender (性別、ジェンダー) と neutral (中立) を組み合わせた形容詞です(名詞形は gender neutrality)。性別に中立な言語や行動を通して性差別(ジェンダー・バイアス [gender bias]) をなくし、多様性を尊重しようという理念を表します。

世の中を男か女かという二項対立で切り分けると、役割の固定化が起こり、居心地の悪さを感じる人が増えてきます。今、ジェンダー平等を目指す取り組みは家庭や職場などあらゆる場面で進められ、社会が規定する男らしさ・女らしさにとらわれないで個人が自己表現できる環境が整えられています。ジェンダー・ニュートラルな玩具の一例を紹介すると、バービー人形で有名なアメリカのマテル社は2019年に Creatable World という新シリーズの人形セットを発売しました。人形は中性的な顔立ちで、女の子・男の子を問わずに服を着せ替えられ、髪型や長さ、肌の色も自在に選べます。子供が性別の枠組みにとらわれずに育つことを願うおもちゃです。

ジェンダー・ニュートラルの理念は言葉に大きな影響を与えています。英語には特定の性別と関連付けられる言葉(gendered language) が数多くあり、職業名ばかりでなく、生活用語、色にまで男女の違いを意識させる単語が溢れています。男女の特徴や役割についての思い込みや先入観を取り除くことは、すべての人が性別を意識せずに能力を発揮できるインクルーシブな社会の構築に欠かせません。

◎ 男女を区別しない職業名

みなさんはすでにジェンダー・ニュートラルな言葉の変化に気が付いていないはずですか。たとえば、次の英文で違和感を覚える単語はありますか？

My daughter wants to be a stewardess.

違和感を覚える単語 _____

すぐに「stewardess（スチュワーデス）は古い」と気がついた人はさすがです。stewardess は女性を示す語尾 -ess が付いているため、「女性の仕事」との固定観念を植えつけます（air hostess も同様）。今では男性の客室乗務員も増えていて、性別を示さない flight attendant や cabin crew member の呼称が広く通用しています。上記の英文は次のように書き直します。

My daughter wants to be a flight attendant.

私の娘は客室乗務員になりたがっている。

日本語でも「スチュワーデス」は「客室乗務員」に取って代わられました（キャビン・アテンダント CA は和製英語）。片方の性別のみを示す職業名は「これは女の仕事、あれは男の仕事」という先入観を生み職業選択の幅を狭めるため、職業名をジェンダー・ニュートラルにする法的措置が日本でも取られています。たとえば、2002年に「看護師」（男性）と「看護婦」（女性）という性別による区別が撤廃され、「看護師」に統一されました。そのほか「保母」は今「保育士」と呼ばれています。呼称を変えることで職業での男女平等を目指しているのです。

● -ess, woman/female + 職業名

女性を示す接尾語 -ess が付いた単語を避けるため、以前は男性のみを指していた職業名が、現在では区別なく女性にも用いられている例です。

<ジェンダー・ニュートラルな呼称>

authoress（女流作家） ➡ author（作家）
 actress（女優） ➡ actor（俳優）
 hostess（女主人、主催者） ➡ host（主人役、主催者）
 waitress（ウェイトレス） ➡ server（サーバー）、waitstaff（給仕スタッフ）
 heroine（ヒロイン、女傑） ➡ hero（ヒーロー、英雄）

actress については、日本語でも「女優」ではなく、男女かわらず「俳優」になっています。ただし、アカデミー賞の Academy Award for Best Actress（主演女優賞）や Academy Award for Best Supporting Actress（助演女優賞）ではそのまま actress が使われています。

また女性の doctor, engineer, pilot, lawyer など、昔は female や woman で修飾し female doctor（女医）や woman lawyer（女性弁護士）などと呼ぶ習慣がありました。わざわざ女性であることを示すのは「標準は男性」を示唆するため今ではやりません。

反対に女性が大多数を占めていた看護師の職業では、男性看護師を male nurse と呼んでいました。現在は male を付けません。

● -man

「これは男性の職業」と思わせる man を含む職業名は、長く使われてきました。これも言い換えが進んでいます。次の表にジェンダー・ニュートラルな呼び名を記入し、どれくらい言い換えられるか試してみましょう。

職業名	旧来の呼び名	ジェンダー・ニュートラルな呼び名
1. 警察官	policeman ➡	
2. 郵便配達員	mailman, postman ➡	
3. 消防士	fireman ➡	
4. 議長	chairman ➡	

5. スポーツマン	sportsman →	
6. 実業家（ビジネスマン）	businessman →	
7. 現場監督	foreman →	
8. スポークスマン	spokesman →	
9. ドアマン	doorman →	
10. 熟練工、職人	craftsman →	
11. セールスマン	salesman →	
12. 素人、俗人	layman →	
13. 政治家	statesman →	
14. 新入生	freshman →	

表で番号が若い職業名（No. 1~4）は言い換えが進んでいるので旧来の呼称は避けましょう。答えは下記の表で示しています。

職業名	旧来の呼び名	ジェンダー・ニュートラルな呼び名
1. 警察官	policeman →	police officer
2. 郵便配達員	mailman, postman →	mail carrier, mail deliverer
3. 消防士	fireman →	fire fighter
4. 議長	chairman →	chairperson または単なる chair
5. スポーツマン	sportsman →	athlete
6. 実業家（ビジネスマン）	businessman →	businessperson, entrepreneur * 複数の場合は business people, business community など
7. 現場監督	foreman →	supervisor

8. スポークスマン	spokesman →	spokesperson, press officer
9. ドアマン	doorman →	door attendant
10. 熟練工、職人	craftsman →	artisan, craftworker, craft person * craftsmanship は artisanship で言い換え
11. セールスマン	salesman →	salesperson, sales associate
12. 素人、俗人	layman →	layperson, laypeople
13. 政治家	statesman →	political leader
14. 新入生	freshman →	first-year student

この表で挙げた police officer, mail carrier, fire fighter など性別を示さない職業名は 20 世紀後半頃にはかなり広く普及していました。ただし、職業と性別に関する固定観念を取り除くのはそんなに簡単ではありません。たとえばコンピュータの絵文字を見ると、police officer, fire fighter, detective（探偵）、construction worker（建築作業員）などを表すイラストは長い間、男性の顔のみでした。2016 年になりようやく Google は女性の顔を用いた絵文字を伝統的に男性中心の専門職に採用しました。絵文字は特に若い女性が多用するので、画像が反映するジェンダー・バイアスを取り除くのは大切です。最近では、さまざまな職業を示す絵文字は、どんどんインクルーシブなものに変わっています。

ここで一つ注意していただきたいのは、ジェンダー・ニュートラルな代替語の普及は一定していないということです。たとえば議長を chairman と呼ぶと「時代遅れ！」と思われてしまうので、広く普及している chair や chair person を使うべきです。一方、新入生を指す freshman は、四年制大学で伝統的に sophomore（2年生）、junior（3年生）、senior（4年生）と組み合わせで使われてきました。そのため first-year student と言い換えている学校もあれば、以前の呼称のまま freshmen を採用する学校もあるので、選択は教育機関の方針によって異なります。

■ Exercises

【the + 形容詞】のレッテル貼りを避けるため、言い換えてみましょう。

1. 高齢者 the aged, the old, the elderly
→ _____

2. 金持ち the rich → _____

3. 失業者 the unemployed → _____

4. 市役所はホームレスが路上生活しないように保護施設に毎年何百万円も支出している。

The city government pays millions of yen in asylum accommodation every year to keep **the homeless** off the streets.

→ _____

5. カレッジ入学後、姪は生活困窮者に食事を配るボランティアに参加している。

Since entering college, my niece has been participating in volunteer activities to distribute meals to **the needy**.

→ _____

■ Answers

- older adults, older people
- people with high income, people who are affluent
- people who are unemployed, individuals without jobs, job seekers
- the homeless → homeless people, people without homes, people experiencing homelessness
- the needy → people in need, people experiencing material poverty, individuals seeking support

4 障がい

障がいにはいくつかの捉え方があります。医療現場で障がいは「治療の対象」で、障がい者は患者の立場に置かれます。また福祉の現場で障がい者は「サポートが必要な人」とみなされることがあります。インクルージョンの理念はこの二つとは異なり、障がいを持つ人が生活・仕事など社会のあらゆる領域で平等かつ公正な機会を得られることを目指します。

障がいや病気に関する言葉は、時代につれて大きく変化しています。障がいはしばしば不自由や能力の欠落と関連付けられるため、ある単語が負のコノテーションを持ち始めると、より中立な別の単語に置き換える試みが始まります。言葉遣いは流動的なので、現時点でもっとも適切とされる表現を知る努力は欠かせません。

次の3つの単語はどれも「障がい」を指します。コノテーションがネガティブなのはどれでしょう？

- disability
- handicap
- impairment

答え _____

この中でいちばん一般的に使われているのはAの **disability** で、身体的または精神的に特定の活動ができない状態を表し、コノテーションは中立です。Cの **impairment** に関しては人によって語から受ける印象が異なり、ネガティブだという人もいれば、医療現場で診断名によく用いられるので中立だという人もいます。Bの **handicap** には注意してください。日本では「ハンディ

キャップ」や「ハンディ」がよく聞かれます。日本語の「障がい」が持つ不自由さのイメージを和らげるカタカナ語です。ところが、英単語 **handicap** (名詞) と **handicapped** (形容詞) は否定的な含意を持つようになっていて、障がいに言及する場合差別語と見なされるので避けましょう。一番安心して使える単語は **A** の **disability** で、形容詞は **disabled** です。この二つの単語は、身体的、精神的、発達・知的障がいなど実に広い範囲を含みます。個々の障がいの症状や状態は人によって大きく異なることに留意してください。

「障がいのある人」は、**a disabled person** や **a person with a disability** などと表現できます。**a disabled person** のように、障がいを指す **disabled** を人 **person** より前に置く表現を **identity first** 「アイデンティティが先」と呼びます。**a person with a disability** のように、人 **person** が障がい **disability** より前に置かれる表現を **person first** (人が先) と呼びます。この **person first** な表現はインクルーシブな表現として最近広く推奨されています。

● 「アイデンティティが先」と「人が先」

最初に障がい者に言及する時の2種類の表現 **identity first** と **person first** (複数の場合は **people first**) について詳しく説明します。

identity-first language アイデンティティが先： 障がい ➡ 人	person/people-first language 人が先： 人 ➡ 障がい
a disabled person disabled people	a person with a disability people with disabilities
障がいを表す語 disabled を人 person/people の前に置く表現が identity first です。 identity は「自分自身であること」を指すため、障がいというアイデンティティがある人の個性であり、その人の生活の大きな部分を占めている感じがします。障がい自分が自分と切り離せない主要な属性であると感じる個人やコミュニティ (例: 聴覚障がい者など) は、 identity first の表現を選ぶことがあります。	人を表す語 person/people を障がい disability の前に置く表現が person first です。障がいに関する情報は with a disability や who has a disability などによって人に付け足します。障がいはその人のアイデンティティのすべてを決める要素ではなく、ある人間が持つ数多くの特性のほんの一部に過ぎない、と示す言い方です。「障がい者である以前にひとりの人間である」という認識が元になっています。

AP スタイルブックでは、この2種類の表現はどちらも使えると書かれています。しかし、国連を含む多くの組織が発行するインクルーシブ言語ガイドラインでは、**person/people first** の表現を一番に勧めているので、こちらを優先するのが無難です。また、どのガイドラインでも強調しているのが「本人の意向」です。特定の個人について言及する場合は、本人に「どう呼ばれたいか」を確かめることが、もっとも大切です。^{*1}

それでは障がいのタイプ別にインクルーシブな表現を見ていきましょう。

● 身体障がい

身体障がい (**physical disabilities**) にはさまざまな種類があります。

● 視覚障がい

はじめに「目の見えない (**blind**) 人」を指す **identity first** の言い方を **person first** に変えてみましょう。**person first** の英語を書く時は、考慮すべき文法要素 (単数・複数、前置詞、関係代名詞の用法など) が増えるので、**person first** の方が少しだけむずかしいかもしれません。

<identity first> ➡ <person first>

目の見えない人 a blind person _____

person first にするコツは、前置詞 **with** や関係代名詞 **who is/has** を使うことです。

目の見えない人 a person **with** blindness
 盲目の学生 students **who are** blind

^{*1} 英単語 **disability** は可算と不可算の両方の使い方があります。個人に言及する場合、**with a disability** (可算・単数)、複数の人の場合は、**people with disabilities** (可算・複数) とします。可算名詞の複数形 **disabilities** を使うと「さまざまに異なる障がい」という多様性を表現できます。不可算名詞の **disability** は抽象的に「障がい」をとらえるので個人を言及する場合は使いません。

目が不自由な状態は多様でいくつも想定できます。下記は AP スタイルブックで紹介されている表現です。

目が不自由な人（さまざまな程度を含む）
 a person/people with low vision/limited vision
 a person/people with visual loss
 partially sighted person/people

個人や特定のグループに言及する場合は、どんな用語を使っているかを確認しましょう。

⚠ 避けるべき単語

visually challenged: 81 ページのコラム③で説明しているように【障がいの部位 + challenged】は 20 世紀後半に流行した PC 表現です。障がいを隠すような過度な婉曲表現は好ましくないため、現在はあまり使われていません。

the blind: 【the + 形容詞】で「目の見えない人」とレッテルを貼るのは避けます（69～70 ページ参照）。

Words Matter コラム ③

politically correct (PC) と inclusive は何が違う？

20 世紀後半に politically correct という概念が流行しました。直訳すると「政治的に正しい」で頭文字をとって PC と省略されています。PC は「差別しない表現」を目指していました。インクルーシブ言語と似ていますが、PC の重点は「特定の人やグループに不快な気持ちを与えない」ことに置かれていました。当時、PC の運動はジェンダー・ニュートラルな言葉を広める後押しとなり、policeman が police officer に代替されるなど、多くの職業名から性別情報が取り除かれました。障がいについても、たとえば blind（盲目の）に対して visually impaired（視覚に障がいがある）の言い換えが提唱されました。ところが PC 表現はだんだんエスカレートして「impaired は（損なわれた）の意味があるから差別的だ」という声が上がると、それに応じて visually challenged（直訳：視覚的に努力を要する）が登場しました。同様に「身体障がい」を physically challenged（身体的に努力を要する）や differently abled（できることが異なる）で代替するようになり、障がいを隠し立てするような一読では意味がわからない表現が出てきました。たとえば、「背が低い」（short）を vertically challenged（垂直方向に努力を要する）、「禿げ」（bald）を hair challenged（髪の毛で努力を要する）、「高齢（aged）」を chronologically gifted（歳月の恩恵を受けている）と表現するようなことです。このような行き過ぎた言い換えは本来の意味をほやかすのみならず、対象を愚弄する響きさえ持ちます。「死んでいる」（dead）を metabolically challenged（代謝の面で努力を要する）と表現するのは行き過ぎの感があります。しだいに過度な婉曲表現は「事実をごまかすことで、かえって差別的」との批判を浴びるようになり、PC 表現は衰退しました。今、上記のような challenged を用いる表現を使うと「古臭い」という印象を与えかねません。

21 世紀の初頭から提唱されたインクルーシブ言語が PC と違うのは、not to offend（不快にさせない）という消極的なアプローチではなく、to

include all (すべてを含める) という積極的なアプローチであることです。インクルーシブ言語を推進する人たちは、人種、性別、身体状況などが異なる人々の平等と多様性の尊重する表現を模索しています。inclusive language と聞くと、英語のネイティブスピーカーは「真の思いやり」を感じるそうです。

●聴覚障がい

「耳が聞こえない (deaf) 人」を指すときも、identity first と person first の両方の言い方ができます。ただし、聴覚障がい者の中には「自分は手話で話す人」だというアイデンティティを持つ人もいるため、a deaf person という identity first の呼び名を好む人も多いそうです。特定の個人をどのように描写するかは本人に確かめるのが大切です。

<identity first>

聴覚障がい者 a deaf person

<person/people first>

耳が聞こえない人 a person with a hearing disability
people who are deaf

耳が不自由な状態も多様で、少しだけ聴力がある場合は次のような表現が使われます。

耳が不自由な人 a person with partial hearing loss
a person who is partially deaf
people who are hard of hearing

上記で挙げた例のように聴覚障がいを示すときや聴覚障がいの人に言及するとき、通常は deaf を小文字の d で綴ります。一方、大文字で始める Deaf

があります。手話を使ってコミュニケーションを図る聴覚障がいの人々は、独自の手話文化を形成し、ろうあ者の社会に誇りを持っています。大文字で始まる Deaf は、聴覚障がい者のコミュニティや文化に敬意を示すために使います (人には使いません)。

Deaf culture (聴覚障がい者の文化)

Deaf education (聴覚障がい者のための教育)

AP スタイルブックには deaf と Deaf を用いた次の例文が載っています。

*Lagier, who is **deaf**, said that the **Deaf** community is a powerful force in his life.*

ラジャーは耳が不自由で、聴覚障がい者コミュニティは彼の人生にとって大きな力であると語った。

⚠ 避けるべき単語

deaf and dumb, deaf and mute: 聴覚障がい者は口がきけないことがあります。二つの単語 dumb と mute はどちらもろうあ者を指す差別語です。「口がきけない人」をインクルーシブに表すには、a person who cannot speak, people with speech disabilities などとします。

the deaf: 【the + 形容詞】で「耳の聞こえない人々」とレッテルを貼るのは避けます。

●車椅子利用者

次は直接的に障がいを表す単語ではありませんが、脚が不自由な車椅子利用者に関する表現を紹介します。

初めに、下記の英文を読んで、ネガティブな単語を見つけてください。

This parking space is for wheelchair-bound people.